

神奈川電設株式会社 本社

Kanacom Corp. New Main Office

No. 21-031-2023作成
新築
事務所

発注者	神奈川電設株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社フジター級建築士事務所 FUJITA Corporation	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社フジタ横浜支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

「つながり」をデザインする



■概要

神奈川電設は神奈川県茅ヶ崎市を拠点としている電設会社である。本社事務所移転にあたり、「創業100年に向けた設備投資」として、コロナ禍により分断されてしまった執務空間を解消するとともに、社員の一体感を醸成することが求められた。敷地は、住宅街に囲まれ川を背にした氾濫リスクの高い護岸地である。近隣への影響や災害リスクなど様々な制約条件がある一方、相模川を眼下に富士山を望むことのできるロケーションである。それら敷地条件を念頭に、コロナ禍により希薄となってしまう社員同士のつながりや、周辺環境・社会とのつながりをデザインすることを目指した。

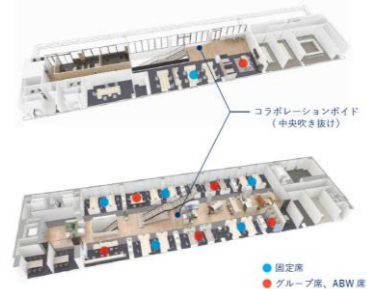


■ワークプレイスと外装計画

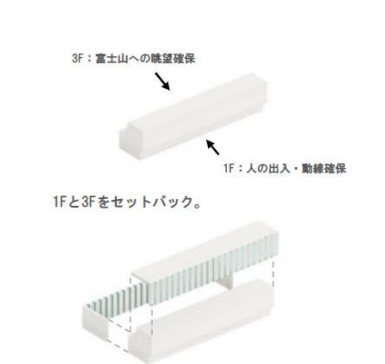
新社屋を設計するにあたり、社員様へのアンケートと、これからの神奈川電設が目指すべき働き方についてのワークショップを実施。ワークショップを通じて、新オフィステーマ『Big Forest Kana Com True』を設定した。このテーマはそれぞれの「場」が「つながり」を生み出し、社員そしてお客様が豊かな気持ちでいられる「森のようなオフィス空間を実現すること」を目標としたものである。

建物中央を大きな幹と見立て、社員の一体感を生み出す吹き抜け空間を設ける。吹き抜け空間(コラボレーションポイド)を中心にワークプレイスを設定、さらにワークプレイスに合わせ外壁スリット窓をコントロールし、様々な「場・状況」に対応できる選択性のあるオフィスを実現した。これは同時に執務空間の空調負荷低減に貢献している。社員同士の交流を促すのみでなく、地域に根ざした会社として、周辺環境や社会とのつながりを実現している。

「ワークプレイス」



「ダイアグラム」



「外装計画」



外部に対して、閉じつつも開くことで、周辺環境・近隣住民との適度なバランスを保つ。総合的な熱負荷の低減により、「ZEB」認証を取得。

設計担当者

建築：守本明生、山田康助／構造：小栗千佳、鶴あすな／設備：吉川 和輝、釜谷 哲章

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

建物データ	所在地	神奈川県茅ヶ崎市	省エネルギー性能	BPI	0.59
	竣工年	2023 年		BEI	0.50
	敷地面積	2,970.34㎡			
	延床面積	1,939.33㎡			
	構造	鉄骨造			
	階数	地上3階			